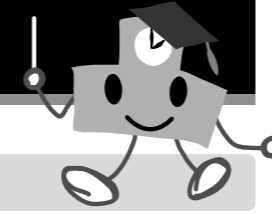


小学校の事例 手稲区 手稲鉄北小学校

トウモロコシ皮むき体験や調理などで、学年や教科と連携・関連付け、楽しく活動。

食をテーマに全校で活動。学年ごとに栽培学習を実施し、調理・加工にチャレンジ。残さず食べることや地産地消にもつなげ、広がりある環境教育を実施。



取組 生命の大切さや収穫の喜びを実感するために

本校は平成21年度より札幌市のフードリサイクル事業に参加し、取組を行っている。

全学年が教材園においてリサイクル堆肥を利用した作物の栽培を行っており、生育、収穫、野菜(トウモロコシ)の皮むきなどの体験を通して、生命の大切さや収穫の喜びを実感できるようにと取組んでいる。収穫した作物は、教科(1~2年生は生活科、5~6年生は家庭科)の中で自分たちが調理したり、あるいは給食の食材として活用されたものを食べ、それを通じて、食の循環(食物連鎖)やフードリサイクルの意義・仕組みを学び、意識を高めている。



トウモロコシの皮むき

内容 栽培 調理 加工 多彩な取組

トウモロコシの皮むき体験は、まずは3年生が学年で体験。その後1~3年生が体育館に集まり、3年生は低学年に教える側となって行う。朝の会の時間を利用して行い、そのトウモロコシをその日の給食の食材として活用している。トウモロコシの皮むきはほとんどの子供たちが初めてで、力のいる作業だが、こつをつかんで互いに教えあいながら、楽しそうにむいている。特に1度体験して教える側に立つ3年生は、得意げに低学年に教え、きれいにむいている。朝むいたものがお昼には給食のメニューとして見る、また食べることが出来るので、苦労やかけた時間が実る瞬間を体験し、喜びとして実感しているようすが見られる。栽培活動に関する各学年の取組は次の通りである。

1年生

ジャガイモ、ミニトマト、スイカを育て、ジャガイモを利用して親子でいもち作りを行った。

2年生

ポップコーン用のトウモロコシを育て、収穫後、乾燥させて、親子でのポップコーン作りを行っている。

3年生

ジャガイモと、社会見学の際に東区の農家からいただいたタマネギの苗を育てている。収穫後は「買い物調べをしよう」というテーマで肉とルーを購入すること(社会科)と関連させ、PTAや地域との交流も含めて、同じく親子でのカレーライス作りを行った。

4年生

ヘチマ、ヒョウタン、カボチャを育てる。まさに地産地消といえる食材「おおはまみやこかぼちゃ」を取り入れた。

5年生

インゲンマメとジャガイモを育て、ジャガイモは家庭科の「ゆで野菜」に利用した。

6年生

ジャガイモとスイカを育て、ジャガイモは家庭科のポテトサラダ作りに利用した。

効果 給食委員会を中心に全校的な盛り上がり

子供たちの食べ物に対する意欲や関心の高まりは顕著である。給食委員会の子供たちからは、おかわり券の発行やはしを使った豆つかみ大会、食に関するクイズなど、様々なイベントが企画され、参加する児童が増えていく。特に給食メニューに対する関心や、給食の残量減少からは、とても効果があったことがうかがえる。

このほか年1回程度、担任と栄養教諭が連携して、全校児童を対象に、給食を残さず食べることや地産地消、フードリサイクルなどについて指導を行っている。また、給食で出る郷土料理の食材からその土地について学んだり、道外、海外の料理、その食材へと発展させ地産地消の理解につなげられるよう、メニューの工夫がなされたりもしている。その他、家庭・地域とは給食試食会の実施や食育便りの発行などを通して連携を深め、食指導の啓発を図っている。



豆つかみ大会


今後 実体験に基づいた学習で効果を高める

栽培活動に関しては、作物を栽培しつ放しにしないよう、年間を見通した計画を立てることが重要である。また、各学年と十分連携していくこと、調理を行う際は火を扱うため、家庭や地域との連携が大変重要である。これからは、給食の食材として使える作物を、今以上に子供たちの手で栽培していくことが理想である。そして、その食材を使った給食について、子どもの手で「自分たちで作ったこと」をアピールし、発信できるようにしていきたいと考えている。長い期間をかけ苦労しながら行う栽培活動や、トウモロコシの皮むきのような実体験は、子供たちに興味をもたせるのに

非常に有効。関連する他教科から授業時間を充当できないか、課題として検討しているところだ。

小学校の環境教育においては、体験をとおしてものを大切にすることや、自分を取り巻く環境を守る活動に参加させることが大切である。そのために、「子供たちが身近なものとして関心をもてる、地域に密着したもの」また「調査活動が実際にでき、1回きりではなく何度か繰り返すことのできる活動」を大切にしつつ、取組を継続していきたい。専門的な視野や知識をもとにした環境教育活動が期待できる、グロブリーティーチャーなどの活用も検討していく。

広げよう
つなげよう
環境学習の輪



実施校から
メッセージ

「人間と環境との関わりについて正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材を育成することを目指す」というねらいに向けて教育することは、これからの時代を担う子供たちにとって大切なことだと思います。知識や技能の習得だけでなく、自分から行動できる実践的な態度を育てたいと思っています。